

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次 亀井良幸

1. はじめに

この度、私は国際交流基金の助成を受けて、2025 年 8 月 15 日から 8 月 22 日までの 8 日間、カナダサマープログラムに参加させて頂きました。このプログラムでは、現地の医療施設を訪問し、そこで働く日本人看護師や薬剤師のお話を聞かせて頂き、Cornerstone Community College で医療英語を学ばせて頂きました。

2. 渡航前に考えていた自分の目標

渡航前は、英語の会話能力を高めることを目標としていました。私がアルバイトをしている飲食店には、たくさんの外国人観光客が来店します。そこでは英語で接客をする機会が多くありましたが、なかなか伝えたいことが伝えられませんでした。学校で学ぶ英語の問題はある程度解けます。つまり、リーディング能力があったとしても、実際に英語を聞いて会話をするリスニング・スピーキング能力がなければ意味がないと感じました。リスニング・スピーキング能力を身に着けるためには、実際に海外に行き、現地の人とたくさん話すことが最も有効であると思いました。ホームステイなどで、文法通りに英語を話すことができなくても、言葉のキャッチボールができるようになり、英語である程度冗談も言えるようになりたいと思っていました。

3. その目標は渡航後どうだったか

ホームステイにおいて、渡航前で思っていた以上に会話をする事ができたと思います。文法通りの正しい英語をきちんと話すことはできませんでしたが、英単語をつなげ合わせ、話そうとする熱意があれば意外と通じるのだと感じました。当初目標としていた、冗談を言えるようになることはできませんでしたが、ホストファミリーと楽しく会話をして仲良く交流できたことは、目標としていたこと以上のことができたと思います。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを知り、渡航前よりも英語学習への意欲が向上しました。

4. 医療施設見学

今回私たちは Vancouver General Hospital と Richmond Hospital、Shoppers Drug Mart の 3 か所の医療施設を訪問しました。

Vancouver General Hospital はバンクーバーにある総合病院で、ここでは院内薬局と脊髄センターを見学しました。院内薬局では、治療に用いるヒルの水槽や、各病棟に薬が入った

カプセルを瞬時に運ぶための装置など、日本の病院ではあまり見られないようなものを見ることができました。特にヒルを使う治療があるということにとっても驚きました。ヒル治療には血流改善作用や抗炎症作用、麻酔作用があるそうです。この病院では他に、日本では聞き馴染みのない脊髄センターという部門があり、そこを見学しました。ここでは事故などにより脊椎を損傷した患者の治療などを行うそうです。この部門の病棟では、様々な病態に応じた車椅子を見せてもらい、トイレや入浴などのリハビリをするための部屋もを見せてもらいました。



Richmond Hospital はバンクーバーの南に位置するリッチモンドで唯一の病院です。カナダのほとんどの地域では、1つの市に病院が1つしかありません。ここでは、この病院で働く日本人看護師の穴戸さんのお話を伺いました。カナダの病院と日本の病院では、職場環境が大きく異なることを教えていただきました。カナダの医療スタッフの間には上下関係はなく、全員が対等な関係にあるそうです。「新人だから甘く接する」ということはなく、「免許を持っていれば出来て当たり前」という考え方が一般的だそうです。カナダの看護師は日本に比べて強い権限を持つため、責任感が強く、わからないことがあれば同僚にきちんと相談することが多いそうです。そのためか、横のつながりが強いことがカナダの看護師の特徴だと思いました。



最後に、ダウンタウンにある Shoppers Drug Mart というドラッグストアの店舗を見学しました。ここでは日本人薬剤師の近藤さんのお話を伺いました。ここではカナダの医療制度や薬局薬剤師の権限について教えていただきました。カナダの薬剤師は処方を変更することができ、ワクチン注射もできます。この様に、カナダの薬剤師の職務は日本の薬剤師と大きく異なることを初めて知りました。

今回、3カ所の医療施設を見学させていただきましたが、日本と異なるところがたくさんあることを学ぶことができました。このような違いは日本にいる限り知ることは難しいため、とても良い機会だったと思いました。

5. 交流体験（ホームステイ）

私たちはバンクーバーに到着後、送迎車でそれぞれのホームステイ先に直接向かいました。その道中で、「ホストファミリーはどんな人たちなのか」、「英語できちんとコミュニケーションがとれるのか」などと考えてとても緊張していました。しかし、いざホストファミリーの家にいられたら、家族全員から優しく迎えていただくことができ、すぐに緊張がとけました。ホストファミリーとは到着後すぐに英語でコミュニケーションを取りました。当初心配していた英語力については全く問題がありませんでした。文法通りに英語を話

すことはできませんでしたが、頑張って話そうとすれば、英単語をつなげ合わせた英語でも案外通じることに気がしました。しかし、もう少し英単語を知っていればもっと楽しく会話ができたと思います。これからはもっと英語の勉強に取り組むべきだと感じました。

ホームステイの時の食事から、バンクーバーの家庭の料理は日本とかなり違うことに驚きました。朝食は、食パン2枚にジャムを挟んで半分に切ったもので、普段パン派の私にはちょうど良かったです。昼食は、食パン2枚にチーズとハム、レタスを挟んだサンドイッチで、とてもおいしかったです。夕食は、ライスとチキンと大きなブロッコリーの組み合わせが多く、日本の家庭料理とはかなり違っていました。また、焼きそばを作っていた日もあり、日本風の食事を作っていたことに驚くとともに、とても感謝しました。もちろん欧米の人はお箸を使わないので、焼きそばはフォークで頂きました。

家族全員で一緒に食事することはできず、ペアと2人で食べていました。ホストファミリー全員と一緒に食事ができなかったことは少し残念に思いました。



少しピリ辛でした

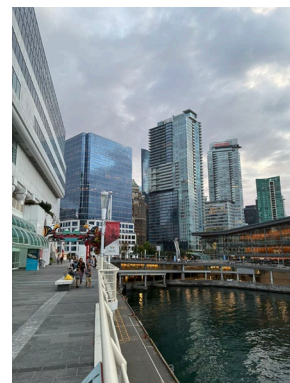


食事後は、ホストマザーと一緒にリビングでテレビでドキュメンタリー番組やニュース番組を観ました。やはりテレビで流れる英語はスピードがとても速く、何を言ってるのか全くわかりませんでした。

6. 渡航先について

バンクーバーの8月の気温は朝が15℃前後で上着を羽織るくらいで、昼間は20℃台前半でとても過ごしやすい気候でした。また、緯度が高いため日照時間が長く、20時でも空が明るかったです。右の写真はなんと20時過ぎに撮影したものです。そのため、観光などで長時間屋外で活動することができてとても良かったです。

バンクーバーは日本と比べて物価が高いと感じました。ハンバーガーとポテトのセットでおよそ2,300円もしました。購入したお土産も総額1万円ほどしました。



7. これからの自分

今回の語学研修を通じて、自分の英語力が思っていたよりもあることが分かった一方、もう少し英単語を知っていればもっと楽しく会話ができたのではないかと後悔も感じま

した。そのため、今後は英語の学習に精一杯取り組みたいと思います。その他に、海外で働くのも良いなと感じました。現地の日本人看護師と薬剤師の話を聞いて、将来の働き方の選択肢の1つになりました。このように、今回の語学研修はとっても良い経験となりました。